

議事要旨

日時 | 平成 30 年 6 月 8 日(金) 15:00~17:00

場所 | 神戸市役所 1 号館 14 階 大会議室

■質疑応答の要旨

資料②	神戸市子ども・子育て支援事業計画 平成 30 年度教育・保育の量の見込み及び提供体制の確保に 関する点検・評価について
-----	---

●委員

弊社でも、保育園に預けることができなくて、または家から遠い保育所に入れないといけなくて、会社に出社するのが大変という話を聞くことがある。今までの方法とは違う考え方でアプローチをする必要がある。

広域利用は、今までの考え方にとらわれないような形でサポートがあればいいと思う。保育園に入れなかったら、どこでもいいから、いかに簡単にアクセスできるか、もしくは自分で連れて行った場合、例えば、公園の駐車場でそのまま会社に来れるようにできないのかとか、多数の意見が社内でも出ていた。

マンションをつくる時も、許可等をまちづくりの観点をもう少し考えてやれば、問題はある程度解決できるのではないかと思う。

私が昔やったワークショップに参加されていた人も、結局は預けるところがなく復帰できないという方もいた。弊社でも、子どもを育てるなら、シンガポールに行ったほうがいいと言っている同僚もいる。

●部会長

昨年に、この会議でも申し上げたが、海外では、マンションの 1 階を保育所にして、その近くの公園等を遊び場にしている。マンションが今どんどん建っているということを聞いているので、そういう取り組みができればいいと思う。

●委員

来年に保育料が無料になるという話があるが、待機児童の増減はどのように考えているのか。幼稚園の利用者が結構減るのではないかと思う。

○事務局

新聞等で発表されたところで、実際にどういう動きになるのかというのは、はっきりわからないところがある。幼稚園、保育園、認定こども園も無償化の対象となるし、幼稚園の預かり保育に関しても対象となる。認可外についても対象になるという話もあり、保育に預ける方が増えて、実際に就労に出る方がまた増えていくのではないかという見込みがある。もう少し国の動向を見ながらでない判断できない。

ニーズが増えており、現状として、神戸市でも待機児童、保育所には入れない方が多数いるので、引き続き、様々な方策で、受け皿確保に取り組んでいきたい。

●委員

保育所をつくる場所も、保護者は駅前がいいと思っている。遠い場所につくっても、通勤する際に通らなかつたら意味がない。1カ所に固まると思う。北区でも、若い人が住んでないから、保育園の定員に空きが多い。

○事務局（整備担当課長）

どこでもつくっていけばいいというわけではない。特に最近、都心部に居住が進んでいる。どこに未入所児童がいるのかしっかりキャッチする必要があると考えている。

例えば、小規模の保育施設は、基本的には駅の近くで進めるとか、今後も引き続き児童の受け入れが続くような場所を絞って、募集をかけているところである。

●委員

児童が中央区などある地区に集中する。中央区は交通が便利なので、中央区に住む人が多いと思う。そういう対策とかはしないのか。

○事務局

神戸市トータルでいうと、北区とか、西区は広域にわたっているので、そういった農村地への居住も促すようなプロジェクトも実施している。多様な試みの中で、三宮だけではなくて、いろんな地域で整備を進めているところである。

便利な都心にマンションが建つと、そこに人が流れるという傾向になっており、保育園に限らず、小学校も過密化という状況にある。

行政ですべて阻止はできないが、できるだけニーズがある地域には受け皿を確保するように工夫していかないといけない。用地が確保できないところは、広域利用というものを工夫しながら、何とかニーズに応えていこうと努力していると

ころである。

●委員

この広域利用というのは、何か具体的にイメージしているのか。

○事務局（整備担当課長）

今ここで示すことができるものはないが、内部的には、どこの場所がいいかとか、保育送迎ステーションを設けても、受け皿の話も出てくるので、どこにつくって、どのように送迎すれば一番スムーズかということを、検討しているところである。

○事務局

待機児童がこれだけ発生しておりながら、既にある保育所や、幼稚園で空きがあるという状況がある。場所のミスマッチ、それと年齢によっても空いているので、そういったものも織り込みながら、先ほどの場所の選定をしていきたい。

都市計画の中で、これまで神戸市は、郊外で団地をつくってきて、社会施設もつくってきた。ただ、ライフサイクルがずっと回ってきて、若い人がいない状態になっているというのも事実。

また、人口減少対策に取り組んでいるところであるが、世界的に見て、全国的に見て、減少の方向からは逃れられない中で都市計画をしていく必要がある。都市全体としてどこにインフラ、資本を集中していくかなど、いろんなファクターを合わせながら、計画していきたい。

●委員

車で送迎という話で、道路の交通状況とかは入っているのか。混む場所があると思う。

○事務局

ステーションから受け皿になる施設に行くのに余りにも時間がかかる場合、児童への影響もあるので、渋滞も含めて、距離も勘案するなど、色々な条件を加味しながら考えていきたい。

●委員

「パークアンドライド方式」は、家の近くに入園できる保育園がなく、車を持っているため、お子さんを駅近くの保育園に預けて、その駅から出勤するというような構想だが保護者の立場としてご意見が預けるか。

●委員

預けるには、便利なほうがいいが、確実に保育園に入れるというのがわかっているならば、選択すると思う。車通勤が許されないことが多いので、車を置いて、そこから電車で通勤できるのであれば、やむを得ないかなという気はする。

ただ、通勤時間が大幅に長くなると大変である。保護者の側にも意見を聞かないと、お金をかけてつくったはいいけれども、実際は年齢が上がると子どもがいなくなるとか、利用者がいないということになる。保護者が、あそこへ行ってよかったと思えたらいいと思う。

●委員

「サテライト」もアイデアとしてすごくいいと思う。事業者側も経済的にはよくなると思うが、子どもの育ちの観点からすれば、0歳～5歳までの園があるにもかかわらず、本園が3・4・5歳だけになってしまう。0歳～5歳の多様な関わりがなくなってしまうが、保護者としてどう思うか。

●委員

保護者としては複雑な思い。我が子の話だが、0歳～5歳のところに行っているので、自然に上の子からかわいがってもらおうという機会があるし、行事も一緒にしているようなので、それはとっても大事なことと思う。保育園に入れるのであれば、保護者としてはサテライトの園に入れるだろうと思う。保育園に入れないと仕事ができないのであれば、そういう方法もやむを得ないと思う。

●委員

サテライトもパークアンドライド方式も、魅力があるものをつくらないといけない。

●委員

育児休業を延ばしている人もいるが、経済的なことを考えると、1年ぐらいで復帰したい人はたくさんいるので、とりあえず申し込むと思う。

●委員

0歳～5歳を保育園側から見ると、途中で分断するのは、育ちの関係でよくないとのことだが、3歳～5歳の幼稚園の立場からは、衛生的な面等が担保されるのであれば、遠いところまでバスに揺られたりするよりも、待機児童が多いときには、サテライトも一つ考えようかと思う。

例えば、保護者が子どもが0歳・1歳のときにサテライトに連れて行くが、3

歳以降は、送迎バスに乗って、ちょっと離れた自然がいっぱいあるところの保育園・認定こども園で保育を受けるほうが、環境的にいいと思う。

今の子育て支援の政策は、保護者の便利なことを第一に考えている。子どもの保育、子どもの教育とか、子どもの環境というものをしっかり整えていくということも行政はしていかないといけない。

1,600人の定員確保について、幼稚園の立場からすると、幼稚園は園庭も面積的にも広いため、0歳・1歳・2歳は無理でも、3歳・4歳・5歳の2号の子どもが小規模事業の卒園した後を、引き受けられるような園を増やさないといけない。

認定こども園への移行にはいろんな不安があるが、長時間預かりを実施する幼稚園には、神戸市が新しく施策として支援をしている。預かり保育は全ての私立幼稚園が実施している。預かり保育の時間も、朝7時から夜7時までオープンしているところが増えてきた。保育園と幼稚園の開所時間は同じなので、プレ幼稚園に来ているような2歳の児童で、短時間利用の認定であれば、幼稚園の預かり保育でも十分受け入れられる。

2号・3号認定の子どもの入所は、区役所が裁量を持っている。区役所から点数制で振り分けられて、施設と保護者が両者とも納得し、契約して入園する。この長時間預かりを実施する幼稚園が増えてきたら、幼稚園に直接申し込みに来る人も多くなってくるため、幼稚園で受け入れておいて、後から認定は区役所に行くのも一つかなと思う。

働いている方とか介護者とかが認定のメインだが、柔軟的な利用の受け入れということもぜひご検討してほしい。

●委員

落ち着いた空間で、目の届く範囲で、少ない人数で見てもらいたいから、あえて小規模保育を選んだ人もいる。サテライトで小規模保育に行っていて、3歳になったら、同じ理念を持った同じ保育園につないで上がれるということは、保護者にとっては安心感がある。

サテライトとしての小規模保育事業の整備というのも、保護者の安心を得るという側面もある。

他市では、保育園を落ちた場合には、長時間預かりを実施する幼稚園の利用者もいるが、保育園に預けるよりも幼稚園のお金が高くなると、友人から聞いている。国の保育料の無償化では、保育料の公平性が重要になってくる。

●委員

保育園への距離が近いところのほうが、子どものことを考えたらよいが、そもそも余り選択肢がないので、保護者の都合になってしまう。選択肢を増やすべきだが、結局、旦那が休めないから、子どもを預けないといけない社会だという意見が社内でもある。

せめて神戸市職員は、ちゃんと休暇をとって、在宅勤務をして、パートナーの方がどうしても仕事に行かなければいけないときには、引き受けるようにしてほしい。

入所の調整点数は、ブラックボックス的であって、一応計算はあるがよくわからない。ウェブサイトで自分が計算して、見える化してもらいたい。

施設の空き状況や、どういう時間で預けることができるかを多くの社員がエクセルで表をつくって、自分で調べている。多分どこかには計算表があると思うが、それすらもわかっていない。

パークアンドライドは、魅力がなかったら、最終的にお金だけ使ってみたいな話になる。六甲山の上に幼稚園をいっぱいつくって、野生児をいっぱいつくるとか、そういうコミュニティとしてのビジョンが先にあるべきだと思う。神戸市役所の横の駐車場に保護者が車を停めて、そこで子どもを預けるとか、わくわく感は本当に大事である。

○事務局（事業課長）

ホームページに一覧は載せており、各区別で、何時から何時まで預かっているとか、一時保育、延長保育を実施している園も掲載している。空き状況については、毎月15日時点の空き状況で、何歳児が空いているか、申し込みが何人かを載せるようにしている。

現在、神戸市では、チャットで調べることができる等、様々な工夫はしてるが、より工夫していきたい。

●委員

神戸市は一生懸命やっているが、保護者などに届いてないのでもったいない。

●委員

検索の件だが、区役所のホームページで調べる保護者は少なく、簡単な検索ワードで調べることが多い。検索でひっかかるようにすることが重要で、工夫が大前提だと思う。

たどり着けば、多少複雑でもクリックしてくれると思うが、たどり着けないと、よくわからないまま、施設の見学に行くことになると思う。

●委員

検索はしないと思う。社内では保護者にリーチしようと思うと、プッシュが必要というのが大半の意見。ラインとかで見て、おもしろそうと思って、情報を目に触れるような形にして、初めてクリックしてもらおう。興味を持ったものにかみついてもらうみたいな形にしないといけないので、載せてますから見てください、というのは絶対見てもらえない。

どのように情報発信をして、ひっかけていくか、目の前に見せていくかということが大事なので、頑張っても絶対見してくれない。

●委員

伊丹市が今年から無償化した。兵庫県下でいろんな施策があるのが、この子ども・子育て制度である。神戸市が国の無償化を受けて、全部無償化にするのか、所得制限を設けるのか、年齢は、1号・2号・3号、その辺をどうするのかというのを真剣に議論して進めていかないと、今のこの待機児童が、大都市なので増えてきて、2倍以上にならないか心配をしている。

保護者は、預けないと働けないので、何とか努力してホームページとかを見る。必死で塾に送り迎えをして、子どもを有名な私学の中学校に入れようと思って努力している保護者もいる。何とかして自分の望む施設に入れたい保護者は検索もする。

区役所発信の区のホームページで、区のこども家庭支援課が発信したらいい。身近なところで調べられる方が、早く情報を保護者に提供できるのではないかと思う。

○事務局

無償化については、先日、国の有識者会議の「提言」という形で出されている。その「提言」の内容は、31年の10月に消費税が8%から10%に上がった分を原資に、31年10月から無償化を実施し、3歳～5歳の方については全世帯、0歳～2歳については、市民税非課税世帯の方が無償化の対象になる。

施設については、保育園・保育所、それから幼稚園、幼稚園の預かり保育も対象になる。認可外は、一定の基準を満たしている方については、平均額を上限に給付という形で行う。

委員からも神戸市としてどうするのかというご意見もあったが、国の有識者会議の方向が出ており、今後、国がそれを受けてどのように対応するのかが示される予定である。神戸市としては、国の動向に注視し、内部でも検討していきたい。

●委員

頑張らない保護者を、どのようにコミュニティでつくっていくかは大きいポイントである。本人は頑張っていると思うが、その頑張り方が違う保護者にも、上手にサポートできる社会にするために、考えないといけない。

報告	利用調整基準の見直しについて
----	----------------

●委員

基本点数表で、「8時間以上働いている」とあるが、私の会社では、定時の時間が7時間45分だが、対象外か。

○事務局

7時間45分は、昼休みを除いてではないか。

●委員

除いた時間である。

○事務局

この「8時間」は、昼休みを含めての8時間以上である。ただ、昼休みを含めて8時間に満たない方は、90点で運用している。

●委員

他市からの申し込みにおける利用調整の見直しについて、神戸市民の子どもが優先される点については、反対ではない。今はマイナス30点で、結構な点数がマイナスされているが、例えば、さらにマイナス点を引き上げて、マイナス40点などにすることを考えているのか。

○事務局

例えば、他都市の住民で父母がフルタイムだと、100点と100点の200点、そこから30点を引いて170点になるが、神戸市内に住む父がフルタイムで、母が週3日のパートであれば160点となるため、今の基準では市民が入所できない。点数については、大幅にマイナス点を引き上げるような方向で考えていきたい。

●委員

保育士等の優先利用について、「長時間預かりを実施している幼稚園に勤務している幼稚園教諭など」は、施設にインセンティブがある方がいいと思うので賛成である。

神戸市の場合は、幼稚園・保育所が、いい雰囲気ですぐに進めている。

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領 神戸版解説書」を公私幼保一体型でつくれているところは神戸市だけである。また、幼稚園と保育園が一緒になって就職フェアを開催する都市は他の地域にはない。

●委員

この点数というのは、保護者に各区役所の窓口で示されるのか。

○事務局

保護者から問い合わせがあれば窓口で伝えている。

●委員

混み合う時期に点数は聞きづらい。多分聞きたいことを聞けないまま飲み込んで、自分で何回も何回も計算して出している保護者がほとんどではないかと思う。

この利用調整の表を見るだけでも、入れなかったらどうしようという思いが先に立っている中で、ストレスを感じる保護者が多くいると思う。

簡単に計算できる工夫をすると、保護者の負担も軽減できる。家の中で暗澹たる気持ちで計算していると、子どもにもよくないと思う。保護者によっては、全くわからないから、窓口で申込書を書く方もいる。我慢してしまう保護者が、その後ろには何十人もいる。

こういう書類は保護者自身で書くのが、行政にとっても助かるし、保護者にとってもいいことだと思うため、わかりやすく書けるような工夫が今後、求められると思っている。

他市は、シンプルな得点表なので、ここまで複雑ではない。せつかくコンシェルジュもいるので、上手な活用ができたらいいと思う。

○事務局

保育の必要度をいろんな角度から見る必要がある。窓口で市民から様々な意見を聞き反映し、また国の指針も反映するなかで、細かな表になっている。

電子申請も去年からできるようにした。できるだけ工夫をして、わかりやすいような形で考えていきたい。

●委員

他都市は、ある程度決まった枠組みがあるので、かなり神戸市は点数が細やかである。

調整点数も、比較的差が出るような得点の配置で、項目も細かくなっている。同一点数時の順位表も、他都市では出してはいない。さらに、「社会的・経済的状況」の順位まで明確にしているのは、非常に保護者にとっては、ありがたい反面、より細くなるので難しいと思う。

○事務局

周辺の他都市の状況も、参考にはしている。

●委員

預かる立場から見ると、これでも粗い。実際はこれにプラスしてさらに書いてもらう。勤務の形態も、そのとおりでない場合もある。神戸市は、人口も多いため、書くのは大変だが、やむを得ない面もあると思う。これだけ細かくしておかないと、保護者からの不平不満も出てくる。

●委員

I Tで簡単に解決できる内容だと思う。複雑な作業に耐えられる人だけを優先的に入れるというインセンティブもいいと思うが、どういうまちでありたいのかというビジョン設定が必要だと思う。

電子申請のときだけではなくて、日常から情報をとることが求められる。例えば、保護者が市の情報をとりにきた際に、市側も保護者からとることによって、もっと多くの情報を簡単にとることができる。ツールさえつくれば、区役所に行くこともなく、必要なカウンセリングが得られるし、情報を聞きに行った保護者だけが知るわけではなくて、ほかの人たちにも同じようにその情報を提供することもできる。区役所に行くとかというのも時代遅れで、申請のときだけの電子ではなくて、普段から電子的に保護者とつながっていれば、情報はもっと細かくとっていけるため、ほとんど労力なく申請することができると思う。

シームレスな形での行政と市民がつながることをもう少し考える必要がある。若い学生とか、I Tの若手をうまく使って、ウェブサイトでも、アプリでもいいが、つくらせてみたら、おもしろいことが簡単にできるかもしれない。他市でプログラムをつくったら、保育園の利用調整に市役所が200時間かかっていたのが、2秒でできたということも聞いている。